

生きることへの挑戦 それが農業生産の向上だった

自分の舌で味見をして、買い取った「ウンチ」

現在、70歳以上のお年寄りが身近にいる人は、そのお年寄りに聞いてみるとわかるだろう。かつての農民が、ウンチを買い取るときに、どのようにしてウンチの値段を決めたのか。

ウンチは肥料になったが、良い肥料になるものと、そうでないものがあった。そのため、農民は自分の舌でウンチをなめて、ウンチの品質を見極め、買い取り価格を決めた。それほどまでして、農民は良質の肥料を求めて町を歩いた。

それが、室町時代から、昭和の20年代まで続いた、農民の生活の歴史なのだ。昭和30年代から登場した化学肥料は、この苦労から農民を解放した。

さて、幕藩体制は年貢・米を基盤とした。幕府は、農民に朱子学の倫理を強制したうえで、五人組制度を導入し、相互監視と連帯責任によって、徹底的に農民から米を奪い取った。その厳しい年貢の取り立てと、当時の生産力の低さが、農民生活を厳しく苦しいものにした。

農民たちは、増収を願って新田開発・農具の改良等に努力を重ねた。また、幕府に年貢を米の物納以外に、

水田1反あたりの米の収量(単位:石)				
年代	年	上田	中田	下田
奈良時代	700年頃	0.79	0.63	0.47
鎌倉時代	1200年頃	1.12	0.93	0.84
室町時代	1600年頃	1.21	1.03	0.93
江戸時代	1700年頃	1.40	1.21	1.03
明治6年	1873年		1.49	
明治15年頃	1882年頃	1.35		1.12
昭和10年頃	1935年頃		2.24	
昭和55年頃	1980年頃		3.73	

高木和男『食から見た日本史』上 p.91 芽ばえ社 1998年
上記文獻は、1haあたりton(ト)で表しているが、換算を容易にするために、反あたりの石高で表した。

稲作よりも施肥効果の高い肥料を要求した。そのような状況下で、登場した金肥が、干鰯や油粕である。

「慶安御触書」で幕府も肥料づくりを啓蒙(正しい知識を持たない人に正しい知識を与えること)しているが、農民は自らの尿尿よりも肥料効果的に便れる尿尿を都市部に求めた。下尿こそ、最も安価な金肥であったのである¹⁾。

やがて、金肥に頼る商品作物栽培の普及は、農村に貨幣経済を深く浸透させ、年貢の機械的な平等負担とあわせて、農村の貧富の差を拡大させることになる。

大名もウンチで もうけた? 前号(45号)で示した通り、大名屋敷のウンチは最も高い値段で取り引きされた。下の記事の遺跡は、それを実証するか?

大阪の商人は、店子(借家に住む人のこと)に共同トイレを利用させて、そのオシッコやウンチを売って利益を上げた。いずれは、その遺跡も発見されるかな?



「トイレ考古学」 東京ど真ん中 800基遺構に沸く

矢留遺跡の調査で、
埋め残の遺構が
見つかった

トイレの発掘が各地で盛況を極めていく中、江戸の真ん中、埋め残の遺構が次々と見つかる。埋め残の遺構は、江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。埋め残の遺構は、江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。埋め残の遺構は、江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。

埋め残の遺構は、江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。埋め残の遺構は、江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。埋め残の遺構は、江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。

江戸は世界屈指の衛生都市

跡 本正 矢留遺跡 矢留遺跡 矢留遺跡

「江戸は世界屈指の衛生都市」といわれる。江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。埋め残の遺構は、江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。埋め残の遺構は、江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。

埋め残の遺構は、江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。埋め残の遺構は、江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。埋め残の遺構は、江戸時代中期から後期にかけて、大規模な埋め残の遺構が次々と見つかる。



¹⁾ 橋本正典『こやしと便所の生活史』ドメス出版 1991年 p.31

²⁾ 前掲 橋本『こやしと便所の生活史』p.49 同書は、ルイス・フロイス『日欧文化比較』を引用している。
なお、寛保祭は、人糞が金肥として成立したのは鎌倉時代であるとしている。寛保祭「開、便所、トイレの起源と」
『日本トイレ博物館』国書出版社 1990年 p.11